

令和2年度 知識集約型社会を支える人材育成事業審査結果

大学等名	信州大学	整理番号	3
メニュー	メニュー I 文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム		
事業計画名	全学横断特別教育プログラム「ライフクリエイター人材養成コース」		

[採択理由]

本事業計画は、研究改革の中核である「先鋭領域融合研究群」で成果を出し始めている融合研究方法論を、学際教育改革の中核である「全学横断教育プログラム」のデータサイエンス教育に活用して、各専門分野に軸足を置きつつも、自らの専門分野の範疇を理解した上で、他の専門分野と共同して、問題を解決できる AI 人材の育成を目指すものである。

本教育プログラムは、当該大学がこれまで取り組んできた文理を超えた学際共同研究を教育に十分生かしていないという教育計画上の課題に取り組むものとして位置づけられている。地域課題の解決を通じて自身や他者の人生を創造できる、地方からの AI 人材の育成という事業目的も社会のニーズに基づいたものとなっており、高く評価できる。

また、本事業計画は大学の将来構想に位置付けられており、学長を中心とした運営体制も十分に確立されている。特に、体制面において、本事業のプログラム開発・事務を担う「ライフクリエイター運営事務局」を新設するとともに、全学組織の「広報・ファンドレイジング室」とも連携し、学外への発信、財政的基盤の確立へも強い配慮がなされており、補助期間終了後も継続的かつ発展的に取組の実施が十分に見込めるものとなっている。

本教育プログラムにおいては、AI ジェネラルスキル、学際協働力、社会実装力といった明確な達成目標が設定されており、修了認定及び学修到達度の客観的な指標として、一般社団法人日本ディープラーニング協会が発行する資格である「General 検定」の取得を必須とするなど、具体性を持つ、カリキュラム内容となっている。また、必修科目においては集中講義期間を利用した入門演習から実践演習に至る合宿形式等も取り入れたインテンシブな演習による密度の濃い学修を提供するほか、各学部のコーディネーター教員による履修指導などの学修支援も用意されており、学修目標を達成するための方策が十分に考えられている。軽井沢町との強い連携も大きな特長である。同町をフィールドとして、学生が地域の課題を抽出し、統計及び AI による解析を基に、地域課題の解決方法を提案、ひいては実際にベンチャーの立ち上げまで支援するといったダイナミックかつ実践的な取組は、非常に高く評価できる。

また、本事業計画からは各学部の若手教員の熱意を感じ取ることができ、将来に向けての長期間にわたる発展的な展開も期待できる。

以上のことから、当該大学の事業計画は「幅広い教養と深い専門性を両立した人材の育成」と「全学的な教学マネジメント改革」という今回の事業趣旨に沿った極めて具体的かつ明確な将来的展望を備えた提案となっており、着実な計画の実施が望まれる。